

3 「地域との協働」を考えるアンケート

(1) アンケートの趣旨

本事業における管理機関（三重県教育委員会）は、卒業までに生徒に習得させる具体的能力の定着状況を測るものとして、地域協働推進校となる本校等と協議の上で事業を通じて実現する成果目標を設定した。この目標を測るため、学期ごと（1学期7月、2学期12月、3学期3月）にアンケートを行うものである。

(2) 質問文と選択肢

次の8つについて質問し、問1～問6については4段階評価を行い、問7、8については以下のような選択肢で5段階評価を行った。いずれも数値が低いほど低評価、高いほど高評価となっている。なお、「地域」と設問に記載すると、学校活動全体で力が身に付いたかどうか計ることができないのではないかと、という意見があった。それは本意ではないため、昨年度から問1～4において「地域」という言葉を外して質問した。当初の設問は、以下のように括弧書きで残した。

問1：（地域の人々と対話する際、）相手の思いや考えを理解しながら聴いたり、自分の知りたいことを詳しく尋ねたりする力は身に付きましたか。

問2：（地域の産業などについて）詳しく調べたり、課題や改善点を発見したりする力は身に付きましたか。

問3：仲間とともに、（地域課題の解決に向けた）取組や活動を考えたり、実行したりする力は身に付きましたか。

問4：（地域課題を解決するための）具体的な考えや提案を、地域の人々をはじめとした様々な人によくわかってもらえるように伝える（プレゼンする）力は身に付きましたか。

問5：将来的に松阪市に住みたいと考えていますか。

問6：将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考えていますか。

問7：今現在あなたの飯南・飯高地域への「愛着や関心」について回答してください。

1. 飯南・飯高地域だけに特別の愛着や関心はない
2. 飯南・飯高地域だけに特別の愛着や関心はないが、地域のことを知れば変わると思う
3. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり今後もその傾向に変わりはないと思う
4. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、さらに地域の産業や文化、歴史などを学んでみたい
5. 飯南・飯高地域に愛着や関心があり、将来は自分が地域をより良い方向に変えていきたい

問8：今現在のあなたの「挑戦力」について回答してください。

1. 何かに挑戦することは、好きではなく、できる限りさけている
2. 何かに挑戦することは、あまり好きではない
3. 何かに挑戦することは、好きでも嫌いでもなく、必要であれば挑戦する
4. 何かに挑戦することは、どちらかといえば好きである
5. 何かに挑戦することは好きであり、少々の失敗を覚悟のうえで挑戦できる

(3) 目標値

- ①対話力・追究力・創造力・発信力の4つの能力が身に付いたと考える生徒の割合
→問1「対話力」、問2「追究力」、問3「創造力」、問4「発信力」に該当
⇒目標値：肯定的回答の割合がいずれも85%以上
- ②将来的に松阪市に住みたいと考える生徒の割合
→問5に該当
⇒目標値：90%以上
- ③将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考える生徒の人数
→問6に該当
⇒目標値：20名以上
- ④「地域アイデンティティ」と「アントレプレナーシップ」に関する自己評価における肯定的評価（第4段階以上）の割合
→問7，8に該当
⇒目標値：3年生の年度末評価において、第4段階以上の割合が80%以上

(4) 結果データ

次のデータは、各年度（1学期7月、2学期12月、3学期3月、ただし3年次は2学期まで）に実施したアンケートの結果である。各項目は上述した（3）目標値に対応し、それぞれ全体に対する割合（%）と人数（斜体）で示している。実施当初から10ポイント以上上昇した数値については、太字で表記した。

注1）「①全て」は、4つの力全てが身に付いたと回答した生徒割合

注2）「①全て人数」は、4つの力全てが身に付いたと回答した生徒人数

注3）「④地域」は、「地域アイデンティティ」について第4段階以上の割合

注4）「④アントレ」は、「アントレプレナーシップ」について第4段階以上の割合

注5）アンケート回答数は3学年79名（一部無回答あり）

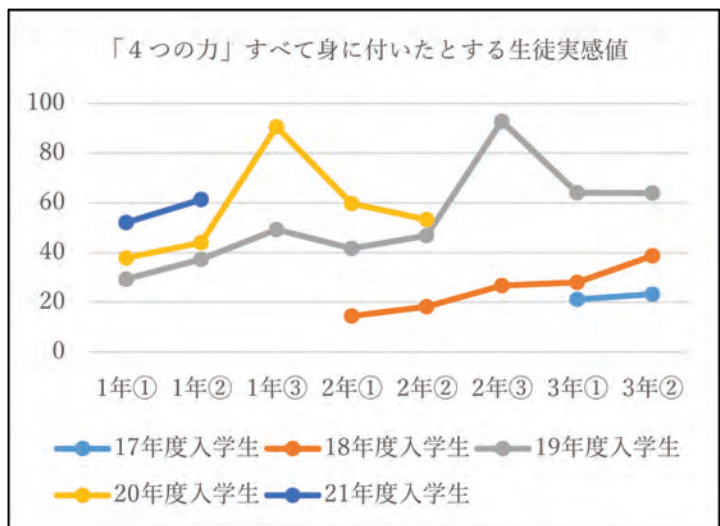
<3学年>

項目	19年 1学期	19年 2学期	19年 3学期	20年 1学期	20年 2学期	20年 3学期	21年 1学期	21年 2学期	当初からの データの差
①対話力	58.2	73.7	76.0	76.4	80.8	97.1	82.1	85.3	27.1
①追究力	59.5	61.3	86.7	80.6	76.6	95.7	87.2	90.7	31.2
①創造力	65.8	64.5	77.3	75.0	71.8	94.3	74.4	78.7	12.9
①発信力	41.3	60.0	76.0	58.3	76.6	97.1	83.3	84.0	42.7
①全て	29.3	37.3	49.3	41.7	46.8	92.9	64.1	64.0	34.9
①全て人数	<i>22人</i>	<i>28人</i>	<i>37人</i>	<i>30人</i>	<i>36人</i>	<i>65人</i>	<i>50人</i>	<i>48人</i>	26人増
②	55.1	47.2	56.3	53.5	58.7	52.9	55.1	52.0	-3.1
③	<i>15人</i>	<i>10人</i>	<i>18人</i>	<i>8人</i>	<i>10人</i>	<i>11人</i>	<i>7人</i>	<i>8人</i>	7人減
④地域	13.2	14.1	29.2	15.5	13.3	15.7	7.7	9.3	3.9
④アントレ	35.4	37.0	51.4	45.1	44.0	52.9	50.0	56.0	20.6

本事業で育成する資質・能力として位置付けた、①「対話力・追究力・創造力・発信力の4つの能力が身に付いたと考える生徒の割合」はいずれの数値においても当初から格段に上昇し、それぞれ85.3%、90.7%、78.7%、84.0%で、全て身に付いたと考える生徒の割合は64.0%であった。中でも発信力と追究力の数値が飛躍的に上昇したのは、1年次からプレゼンテーションを年間で何度も行い、自らの問いに対して探究サイクルを繰り返してきた結果だと考えられる。そして、4つの力全て身に付いたと考える生徒は2倍以上も増加しており、学年が進むにつれて生徒は成長を実感していることも見てとれる。生徒アンケート（記述）では、「いいなんゼミで1年間研究することでたくさん課題が出てきて、そこから改善点を見つける力も身についたと思う」とあり、いいなんゼミが成長を実感する大きな要素になっていると多数回答があった。また、「授業そのものが課題や改善点を見つけ考えるという内容が多いため、追究力が自然と身につけている」との回答もあった。目標値であった「肯定的回答の割合がいずれも85%以上」には及ばなかったが、個別の力では目標値をクリアしており、研究開発内容を推し進めていくことで生徒の力を身に付けることが概ね達成できたと言える。

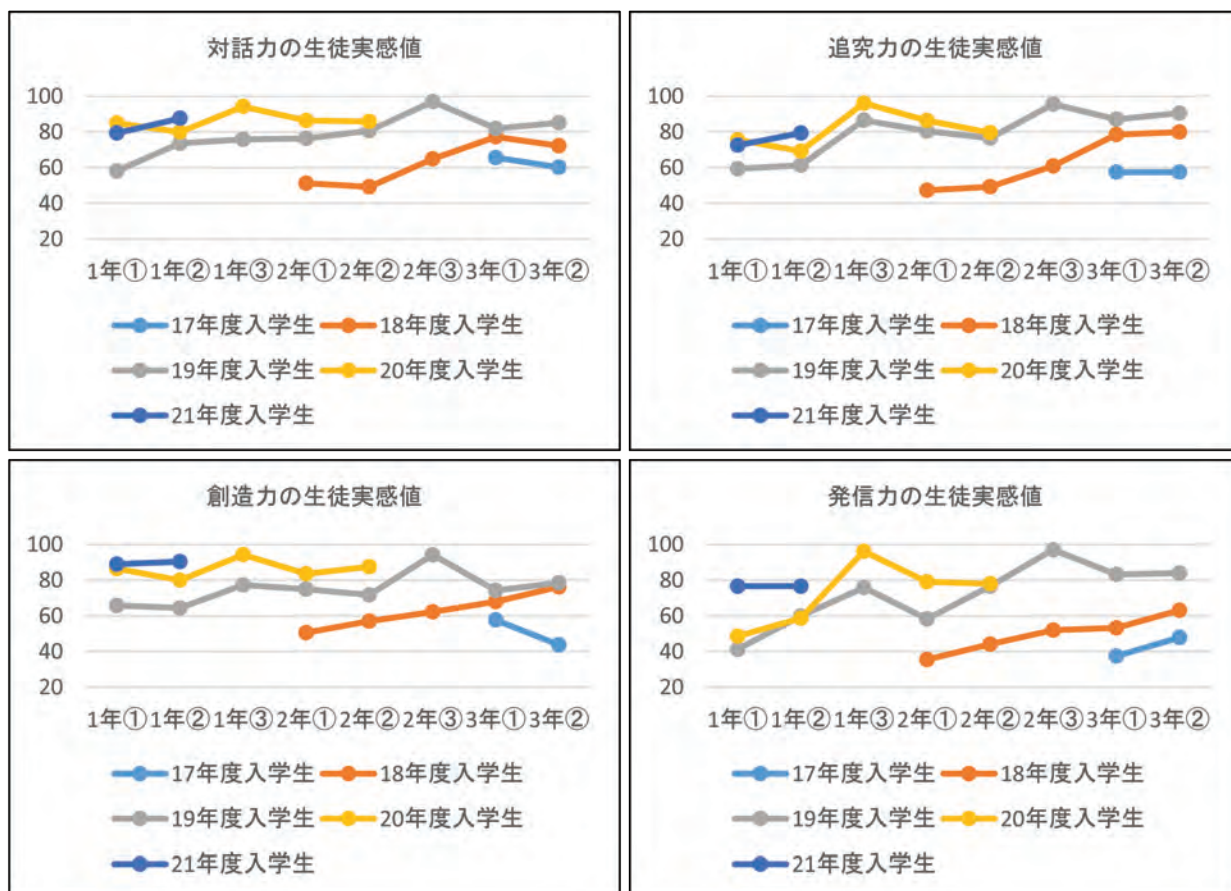
この校内での4つの力に関するデータ結果については、三菱UFJリサーチ&コンサルティングが行った「高校魅力化アンケート」の3年間の結果からも裏付けることができる。例えば、対話力に相当する項目では「相手の意見を丁寧に聞くことができる」76.3%→86.0%、追究力に相当する項目では「授業で『なぜそうなるのか』と疑問を持って、考えたり調べたりした」40.0%→66.7%、「自主的に調べものや取材を行う」57.5%→73.7%、発信力に相当する項目では「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」45.0%→73.7%、「友達の前で自分の意見を発表することは得意だ」31.3%→66.7%と、1年次から3年次にかけて大きく成長がみられる。

本事業の取組によって3年間学んできた生徒たちに大きな成長が見られたことは上記データより明らかだが、その他学年にも成長は見られている。右グラフで過年度生と在校生を見てみると、その数値は同様に上昇していることが分かる。また、19年度から21年度を見てみると、年々1年次当初の数値が高く、上昇していることも読み取れる。



生徒アンケートからは、フィールドワークで「色々な工夫をして相手に伝える方法を色々考えた」、「アドバイスをし合って改善点を直し、課題を発見することができた」など、フィールドワークに関連した活動によって成長を実感する多数の記述があった。これは事業が3年目となり、1年次の核となる「産業社会と人間」においてフィールドワークの活動内容が精査され、地域を学び場とし、地域と連携して生徒の育成に取り組んできたことの成果だと考えられる。

また、4つの力それぞれの個別の成長実感についても、以下の4つのデータより概ね上記と同様のことが示されている。今後もこれまで取り組んできた内容を継続・精査して、生徒一人ひとりの成長を促していきたい。



一方、②「将来的に松阪市に住みたいと考える生徒の割合」は55.1%→52.0%と若干低下し、目標値の90%には遠く及ばなかった。生徒の記述内容を見ると、「他の地域に住んでみたい」や「都会へも行ってみたい」という回答があり、「高校魅力化アンケート」では「将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい」の項目が78.9%であり、一概に数値が減少したからといって松阪市を悲観的に思っている生徒が多いわけではない。例えば「将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい」、「将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う」の項目についてはいずれも64.9%となっており、地域に愛着をもっている様子が分かる。さらに、「地域から大切にされている雰囲気を感じる」項目で81.9%、「興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる」で85.8%と、地域との関係性が高いことも示されている。そのため、③「将来的に飯南・飯高地域に住みたいと考える生徒の人数」については15人から8人の約半減となっているが、この地域に住みたくない理由としてはそれぞれの「地元に住みたいから」を挙げている。そして飯南・飯高に住みたいと考えている生徒8人の内訳は、現在その地域に住んでいる生徒7人であった。ここからも、地元に住みたいの良さを感じていることがわかる。今回は目標として設定していなかったが、定住人口ではなく、交流人口や関係人口をはかる指標を用いた方が本事業の取組を正確に測定できたかもしれない。

また②や③に関連して、④「地域アイデンティティ」の項目についても13.2%→

9.3%へと減少した。ただし、数値には反映されなかった第3段階に回答した生徒の記述を見ると、「高校3年間で飯南・飯高の良さを沢山学び見つけてきた」、「自然が豊かで、とてもいい環境だと思う」、「3年間でこの地域に愛着は湧いた」とあり、地域に愛着を持っていることがわかる内容が多く見られた。また、第2段階においても「飯南、飯高の地域の方々はとても魅力的」との記述があり、生徒の認識とデータの収集にズレがあることがわかった。この部分でも当初の目標設定の不備がみられた。ちなみに第5段階を回答した生徒からは、「飯南飯高には、まだまだいい所、魅力があると思うから、それを沢山の人の人に知ってもらえることをしたい」と記述があり、地域で積極的に活動していくと当然ながら地域の愛着が高まり、自らも主体的に地域へ参画していく姿がみられることも読み取れた。

最後に④「アントレプレナーシップ」においては、35.4%→56.0%と上昇した。「高校魅力化アンケート」では、「人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある」項目で学校全体の数値として74.2%もあり、これは他地域と比べて13.4%も高くなっている。さらに、「自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる」項目で91.6%、「挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある」項目で94.8%と、いずれも高い数値が出ている。このことにより、生徒が自らの挑戦に対して支援してくれる環境が整っていると感じていることがわかる。そして、「先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした」項目については77.2%であり、他地域より14.3%も高い数値であった。今年度の「いいなんゼミ」では多数の地域の大人に伴走していただいて、生徒たちはイベント開催や経験を重ねていった。これらアンケート項目の高い数値については、地域の大人と協働を重ねた「いいなんゼミ」において結実することとなった。

以上のデータから、飯南・飯高地域は生徒を育てる良質な環境であることがわかった。その良質な地域を学び場としてキャリア教育を実践することで、自ら挑戦し、対話力・追究力・創造力・発信力といった4つの力（生きる力）を身に付けた生徒を育成することができた。そして数値上ではうまく反映されなかったが、地域への愛着を持った生徒も育てることができた。このことは、本冊子を含むこれまで3年間の軌跡をたどると明らかである。また、「これまで協力してもらった地域へ恩返しをしたい」、「地域に元気になってもらおう」と、生徒が主体となって打ち上げ花火を計画・実施した。この事例以外にも、地域に貢献したいという思いから自走し、生徒それぞれが自分らしく地域に飛び出して、様々な活動を行うことができた。

データとともに生徒の活動もみていくと、本事業での目的・目標は達成されたと考えられる。社会に開かれた教育課程を愚直に進めていき、生徒の自分らしさを尊重しながら地域へ学び場を広げていくこと、自己の在り方生き方と一体で不可分な課題に取り組む探究活動に伴走していくこと、これらのことを実践していくことで生徒たちはのびのびと成長していくのである。

2021年6月26日【夕刊三重】「オンライン交流」

経済産業省の若手官僚と交流



オンラインで「日本の未来について語る会」に臨む（手前から）佐々木君、青木新菜さん、青木碧里さん＝飯南町粥見の飯南高で

飯南高

「元気な田舎のまままで」

課題研究学習 いいなんゼミ 経産省の若手と「未来」語る

松原市飯南町粥見の県立飯南高校（土方浩校長）は25日午後4時から同校で、課題研究学習「いいなんゼミ」に取り組む3年生の3人が、若手官僚と高校生による「日本の未来について語る会」をオンラインで行った。経済産業省の若手職員と他県の高校生と地域の活性化などについて意見交換をした。

同高では、生徒それぞれが自身の興味や関心を元に課題を決め、約1年かけて研究する「いいなんゼミ」の活動に取り組んでいる。

語る会は、国の中央省庁で、専門的に課題解決に取り組んでいる人の意見を聞く機会を設けようとして実施した。

この日参加したのは、青木碧里さん（3年生）、青木新菜さん（同）、佐々木隆之介君（同）の3人。同じく地域活動を中心とした課題研究学習に取り組んでいる富田県えびの市の県立飯野高校の生徒5人とともに、経産省職員と交流、オンラインで地域活性化や地方創生に関して意見交換した。

青木新菜さんは、自身が所属する美術部で地域の特産品を用いた「緑茶ラテアート」を開発したことなどを紹介すると、高校生が関わることで、活性化の取り組みになつていると励ましを受けた。

佐々木君は「地域が良くなることも、今のままの元気な田舎であってほしい」という思いを伝え、人間社会で生きていく上で、どんな場面でも対話していくことが大事と確信した。

青木碧里さんは「みんなを巻き込んで、地域の話を聞いていくことが大事と確信した。」

青木新菜さんは「みんなを巻き込んで、地域の話を聞いていくことが大事と確信した。」

青和会と松阪フェス木バル向けの工作キットを作成

元気で躍進
地域経済

青和会、飯南高生が準備

松阪フェス木バル向け 親子木工工作キット作成

木材販売の若手経営者でつくづく松阪地区青和会（堀川泰明会長、31人）は11月に、松阪市伊勢町の松阪農業公園ヘルプアームで、2年ぶりの回

目を奪う松阪フェス木バルの2021を叩く。当日の親子木工工作キットを現在、県立飯南高校（主方漬校舎）の3年生5人と共に準備しており、6月30日には同市木の郷町のスマッキー木の情報館で3種類のキットを最終的に仕上げた。あと

は学校での「いいなんゼミ」の授業の中で、一つ一つ仕上げていく。

次世代に木の文化を松阪フェス木バルは若い世代に向けて木の魅力や、林業・木材業のやりがい、面白さを伝え、若者の「木離れ」や業界の担い手不足の問題を解消しようと、一昨年は10月に初めて開催した。昨年は新型コロナウイルスのために開催を断念したが、今年は順く、当日晴ればヘルプアームで、雨天ならスマッキーアームで行う。

その中で、市内の小中4、6年生を約50組を対象に親子木工工作を実施。高校生が考えて作成した木工キットを組み立ててもらおう。また、当日のアレゼンデーションも高校生が行う。

参加する生徒は、飯谷田君（17）ら5人で、同校の3年生の伝統となつてきた。

丸テーブル（事前）など担当グループに分かれて作業する生徒とメンバー木の郷町のスマッキーで



ている「いいなんゼミ」の授業の「調」回ゼミでは年間を通して少人数のグループで一つのテーマを追究していくもので、担当校なら飯南高校のメンバーと共に松阪フェス木バルに向けて取り組んでいくことになる。

青和会ではPR委員会（事務局委員長、5人）が中心となり、4月から

加、木工工作ではどんな物を作ってもらおうか、どんな形にするかを考え、生徒のアイデアをまかしながら専門知識のあるメンバーが肉付けし、形にしていった。作る物はローテーブル（長さ80センチ、高さ40センチ）と丸椅子（高さ30センチ、高さ40センチ、木製時計20時、厚み4センチ）に決定。

この日は午後6時半からスマッキーに生徒全員とメンバー9人が集まり、組み立てながらデザイン・設計の細部を詰めていった。

森脇委員長（32）によると、生徒たちは今後9月中旬にキットの準備を完了し、10月にアレゼンデーションを作成する。メンバーの堀内重幸さん（32）は「高校生の考えで作ったキットを、さらに次の

中学生とラテアート教室を開催

元気で躍進 地域経済

地域の中高中生とコラボ

健やか薬局 みんなのカフェ 飯南高のラテアートを伝授

松阪市嬭野中川新町二丁目... 17日午前10時から正午まで



青木部長(左)に教わりながらラテアートに挑戦する親子連れ

のコラボイベントが開かれた。同カフェは、調剤薬局チエーン(株)メディカルリンクの健やか薬局中川店に併設。2階には同社の本社がある。開かれたコミュニティスペースと



蒸し煎茶のパウンドケーキは、みんなのカフェがこの日限定で焼いた。ゆうゆうのグッズとともに嬭野中のTシャツを販売する生徒会役員ら(いずれも嬭野中川新町二丁目)みんなのカフェで

して地域の人たちに活用してほしいと、昨年11月には嬭野中とコラボ。生徒とのコラボは今回が2回目となった。山下校長(57)と王方校長(57)は、山下さんが前任の市立飯南中学校長だった時、共に中高一貫教育に取り組んだ仲

同部からは青木新芽部長(18)ら2、3年生5人が参加。青木さんは「コロナ禍のため、自分たちの代でお客さんに出すのはやっとな回目。これまでとほちよと違って、今回は作ってもらった形なので、とやったら分かりやすく伝えられるか練習してきました」と話していた。また、嬭野中からは生

徒会役員3人が参加し、松阪市社会福祉協議会の就労継続支援B型事業所・嬭野ゆうゆう(中西且弥管理者)とコラボ制作したオリジナルTシャツを販売した。「嬭野」の文字が、よく見ると「かがやくいのち」という平仮名を合わせて構成されているデザインは山下校長が発案し、中西さんがまとめ上げた。

第1回フィールドワークの魅力マップを茶倉駅に展示



地域の魅力調査まとめ

茶倉駅 飯南高生が14点展示

松阪市の飯南高校一年生による「飯南、飯高地域の魅力発見展」が、飯南町粥見の道の駅「茶倉駅」で開かれていた。二十九日まで。地域課題解決型キャリア教育の一環、一年生七十七人の八割近くが域外の出身で、地域の暮らしをより良くしていくため、まず魅力探しから始めようと、五人

ほどのグループに分かれて、六月二日に飯南、飯高両地域を見て回った。発見した魅力を、グループごとに模造紙にまとめ、十四点を展示。地域を流れる清流榑田川や緑豊かな山々、棚田、寺社、名所旧跡、遺跡などを写真を添付して紹介している。山や川の景色の美しさを

取り上げたグループは「地元の人にはよく見る景色だと思うが、見慣れない私たちが自然の美しさ、楽しさを知りたい」と連携気分になったと感想を記していた。学年主任の杉野直樹教諭(左)は「会場にアンケート用紙を置いてあるので、足を運んで、見た感想や意見を書いてほしい。生徒のこれからの勉学の励みにしたい」と話している。(西村孝規)

第2回フィールドワークで木綿作りと糸繰りに挑戦

木綿作り、糸繰りに苦戦

フィールドワーク 飯南高1年が地域で体験

松阪市飯南町粥見の県立飯南高校（土方清裕校長、231人）の1年生77人は28、29の両日、地域の魅力を知ろうと、飯

南飯高地域の名所や企業、学校などを訪れるフィールドワークに取り組み、体験などを通して歴史や特色などを学んだ。地域の魅力や課題を高校生の目から発見し、地域をさらによくしていくと、2019（令和元年）から実施。「産業社会と人間」の授業の一環。6月2日に続いて、今回は2回目。16班に分かれて、飯高町宮前の道の駅飯高駅や飯南町上仁柿の旧仁柿小学校などを訪れた。

うち上仁柿へは9人が



仁柿木綿の糸繰りを教わる飯南高の1年生
＝飯南町上仁柿の旧仁柿小で

訪問。初日は仁柿自治住民協議会（小山利郎会長、530人）から、地元で取り組んでいる巨大なわらオブジェの作り方などを教わった。2日目のこの日は、マドウムエリカさん、利根川功聖さん、青木天空さんの3人が同協議会の活動や仁柿の歴史を学んだ後、同所で取り組んでいた

る松阪仁柿木綿作りに挑戦した。3人は、まず住民自治協会の加藤英郎副会長（72）から「仁柿は江戸時代、大阪や京都などから伊勢参りの人たちが通る伊勢本街道があり繁栄していた。オブジェを作ったことで仁柿という地名を多くの人に知ってもらえてうれしい」など仁柿の歴史や活動を聞いた。その後、木綿作りを体験したが、糸繰り作業には苦戦。スタッフに教わりながら徐々にコツをつかみ、上手に紡ぐと、最後に布を織った。マドウムさんは「わらの像ができるまでの工程は大変。糸繰りは力加減

が大切だと知った」、利根川さんは「わらの像を作るのは改めて大変だと感じた。糸繰りは両手の使い方に苦労した。でもとても楽しかった」、青木さんは「わらの像を初めて見た。機織りは簡単だったが糸繰りは難しかった」とそれぞれ話した。今後、各班で活動内容をまとめ、発表する。

ハナノキコンサート



**紅葉したハナノキの下
イブニングコンサート**
飯南高吹奏楽部

松阪市飯南町粥見の県立飯南高校（土方清裕校長、231人）の吹奏楽部（山中裕子部長、10人）は9日午後4時半から同校のシンボルツリーで、ちょうど赤く色づいたハナノキの下で、イブニングコンサートを催し、地域住民と共に楽しんだ。

ハナノキはカエデ科の落葉樹で春に真っ赤な花を咲かせる。秋には紅葉し、年に2度、真っ赤に染まる。同校の木は樹齢約90年、高さは約25メートル。

へ吹く風」など全4曲に聞き入った。

尾鷲市のサーブス業・東美沙さん（44）は「紅葉を見に来たら、偶然コンサートがあった。少人数で、ほのぼのしていてよかった」と話した。

また、同校のボランティア部の生徒が検温、消毒など感染症対策、野球部が駐車場の誘導、同窓生が温かい飲み物を提供するなどして、演奏会を支えた。

山中部長は「天候がよくなかったのに、たくさんの方が来てくれてうれしい。10人で心一つにして演奏できたと思えます」と話した。

紅葉は20日まで楽しめそう。

巨木で校門から続く杉並木とともに、生徒や地域住民に愛されている。

地域のひととの交流を深めようと始まった演奏会も、今年で6回目。赤い落葉の上で演奏が始まると、100人ほどの聴衆が「ジフリのメドレー」「明日

文化祭の中夜祭で地域の方々へ恩返し

秋の夜空に大輪の花 飯南高文化祭で250発打ち上げ



松阪市飯南町粥見の県立飯南高校（土方清裕校長、231人）は19、20の両日、文化祭を行い、初日の午後5時45分から校内のグラウンドで、約250発の花火を打ち上げた。生徒や地元の人たちは秋の夜空に広がる大輪の花火を楽しんだ。昨年の文化祭では生徒会が中心となり打ち上げ

昨年が続いて打ち上げられた花火を見守る生徒たち
—飯南町粥見の飯南高で

た。今年は予定していなかったが、応援団サークル（小泉奈々代表、5人）が「昨年感じた感動を今年はさらに大きくしたい」と提案。10月後半から賛同者を集め、花火実行委員会を結成して、準備を進めてきた。

資金集めは、地域の企業を訪問し、文化祭のテーマと思いを伝え、募金してもらったら招待状を送る、またはライブ中継で花火の様子を届けるなどの返礼を用意。さらに地域住民からの寄付、スパー前での街頭募金などで、昨年の倍以上の40万円余りを集めた。

打ち上げは昨年同様伊勢市の辻傳煙火店が協力。打ち合わせをして号数や色、形、どんな花火にするかを決めた。

当日は吹奏楽部による演奏、劇、ダンス、ミニライブの後、日が沈んだ午後5時45分、文化祭のテーマ「星」の文字をかたどった花火に火が付いたのを皮切りに、約250発が5分半にわたって次々に打ち上げられた。間近で上がる大輪の色鮮やかな花火に、訪れた人は「想像よりすごかった」「恒例にしてほしい」「涙が出た」と感激していた。

1年・森本波音さんは「想像より倍以上すごい！ 近くで見られたから迫力がすごかった」、発起人の2年・小泉さんは「資金集めは大変だった。でも、たくさんの人と話し、敵しいご意見も頂いて勉強になった」、同委員会の3年・池村佳紀君は「最高の思い出に。コロナ禍でもできることをして、地域や学校の人たちに元気を与えたい」とそれぞれ話した。

深野和紙で卒業証書を作成



卒業証書、自分で紙すき

飯南高 3年 伝統の深野和紙で10年目

松阪市飯南町粥見の県立飯南高校（土方清裕校長、231人）の3年生79人は14、16、22日の3日間で3組に分かれ、飯南町深野の市飯南和紙和牛センターで卒業証書

卒業証書用の紙をすく3年生、飯南町深野の市飯南和紙和牛センターで卒業証書

る。今年で10回目。深野和紙は1599（慶長4）年から生産が始まり、明治30年ごろは250戸近くが紙すきをしていた。紀州藩の藩札や、日本最初の郵便切手の用紙に使われた県指定伝統工芸品。

16日は午後1時半から23人が作成。同会の4人がコウソウの皮や、すりつぶしたハナオクラの根を水に溶かした紙料液を準備。生徒は校章をかたどった厚紙をすの上に置いて「すかし」を作り、「かみすきこて」と呼ばれる道具で水の中のコウソウをすくい取り、均等にならした。東空社君は「飯南の文

化に触れてよかった。水が思った以上に重かった」と話し、小森心君は「和紙の白さが独特に感じた。地域の方と一緒に何かをするのは楽しかった」と話した。担任の瀬川祥教諭は

「思い出のある証書になり、受け取ると特別な気持ちになるのではと思う。地域のことも勉強できてよかった」と話した。

いいなんゼミ発表会

地域や学校の魅力発信

飯南高生「いいなんゼミ」発表会

松原市の飯南高校三年生が取り組んだ総合学習「いいなんゼミ」の発表会が十日、市飯南産業文化センターであった。学校の紹介動画を制作し、地域の魅力を伝えるなど、興味のある分野でさまざまな学びを重ねてきた生徒のうち、校内選考を輝た八人が発表した。

（奥村友基）

いいなんゼミは、三年生が授業や進路希望にまつて研究テーマを見つけて、実験や調査などを重ねる学習。今年には七十九人が、教諭を深めてきた。

発表会には一、二年生や学校関係者が参加。新型コロナウイルス感染症対策のため、二年生や保護者、四校の学習に取り組む飯南以外の高校の関係者がオンラインで見学した。

コンピュータ系列で学ぶ松倉悠喜さん（一）は、「中学生に飯南高を手軽に知ってほしい」という思いから紹介動画を制作したことを発表。スマートフォンで見やすいようにと縦画面向けの動画に、校内の風景や各学科の楽しさを感じ取ってもらいたいことを伝え、「撮影や編集が計画通り進まないこともあった。卒業後は専門学校でゲーム制作を学ぶので、修業を生かしたい」と話した。

青木新菜さん（二）は、地域の魅力を伝えるため、地元のコーヒー店「みなまた珈琲」の協力を得て、上二軒の伊勢本街道を巡るハイキングを企画し、参加者十人を案内した経験を発表した。卒業後、道の駅「飯高駅」に就職する青木さんは、地元をさらに学びたいと、双子の姉の響里さん（三）と「飯南飯高魅力発信隊」を立ち上げた。ゼミ活動を通じ、インターネット上に地の情報が少ないと気付いたため、会員制交流サイト

動画作成など活動紹介

工夫説明・解説

- ・詳しい情報・雰囲気
- ・動画構成
- ・採用した動画



動画作りについて説明する松倉さん（奥）
＝松原市飯南産業文化センターで



文部科学省指定事業

令和元年度採択

地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

研究開発実施報告書・第3年次

令和4年3月発行

発行者 三重県立飯南高等学校

〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5480 番地 1

TEL:0598-32-2203

FAX:0598-32-2204

<http://www.mie-c.ed.jp/hiinan/>



三重県立飯南高等学校